

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 7月 13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2277101701
法人名	有限会社 アートプロジェクト
事業所名	グループホーム 泉の家
所在地 (電話番号)	浜松市北区都田町7554番地の19 053-412-4000
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年4月26日

## 【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年5月15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20 人	常勤	15 人, 非常勤 5人, 常勤換算 12.8 人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	3 階建ての	1 階 ~ 3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,400 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年4月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	8 名	女性	19 名
要介護1	7 名	要介護2	9 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 81 歳	最低	56 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	坂の上ファミリークリニック、鈴木医院、松下医院
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から5年、管理者の交替から1年半が経過、裏手に公園を控えた住宅地に立つ3ユニットのホームである。前回評価受審から一番の進化は地域運営推進会議であろう。快く受け止めて協力してくれた委員や地域住民に恵まれたことは勿論であるが、その協力を呼び起こしたのは日々の利用者に対する職員の介護姿勢だと思われる。また各方面で「泉の家」の記事に取り上げていただいたことも嬉しいことであった。防災訓練や行事の折には近隣へ騒音等についてのお詫びと協力お願い、催し物への参加ご案内を出して円滑な近所付き合いが保たれてホームの理念「地域と手をつなぎ安心安全、温かい家庭を目差します」が実現している。今後は介護相談、介護教室の開催等により地域との関わりを更に強めていかれるようお願いしたい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、改善課題となった項目の危険物の管理について、しまうことや針の本数を確認するなど具体的なマニュアルを作成、掲示している。金銭管理の支援については家族アンケートを実施し家族の意見も取り入れて、1000円を管理していただくようになった。改善項目ではないが地域密着型サービスとしての理念を策定し指針に沿った支援を意識する等前向きに取り組んでいる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価記入にあたっては各ユニットごとに利用者の入浴介助後の2~30分を話し合いの時間として全員で取り組んだ。ワムネットの外部評価を見て入居を決めた利用者もいることから職員は評価に対し誠意を持って取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	区職員、包括支援センター、自治会長、民生委員、坂の上クリニック、家族、ケアマネジャー等をメンバーとして2カ月に1回の開催が継続されている。地域委員の積極的な協力と的確な助言により、地域との交流が活発になり、グループホームの意義や役割を地域に啓蒙したり、防災訓練では自治会役員が電話連絡後3分で駆けつけてくれる等その取り組みは利用者で地域の中で安心安全に暮らすという運営推進会議の目的を十分果たしており、今後も双方に有意義な会議として発展されるよう期待したい。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族同志の交流を促したり、意見を引き出す為に茶話会を開催した。家族や知人の訪問は多く、その機会に意見や要望を言い出しやすいように日頃からよい雰囲気作りを心がけている。外部評価や運営推進会議での問題は家族アンケートを取るなどして広く意見を聞いて運営に反映している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	1年半ほど前には地域との関係は希薄であったが、運営推進会議から様々な発展して老人会のハモニカ演奏、推進委員家族の大正琴の演奏、将棋の対戦と多くの地域ボランティアに恵まれて利用者の生活に彩を添えている。子供ラッパ隊の披露や遠州一座公演には近所にも声をかけて一緒に楽しんでいただいている。散歩の折にはみかんやお花をいただいたり、無人販売の野菜を買いまた、途中で空き缶やゴミを拾ったりして地域の一人としての役割も果たしている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所理念に「地域と手をつなぎ安心安全、温かい家庭を目差します。」を掲げ、地域に根ざしたグループホームを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所理念が各階の壁に利用者の書として掲示されており、日々の申し送り時に職員一同が理念について考え反省点を話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会長などの手助けもあり、地域の色々な行事に参加している。また将棋の相手や大正琴の演奏、老人会など地域ボランティアの訪問も多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を各ユニットごとに職員全体で考え、話し合い取り組んだ。昨年の外部評価の要改善事項を真摯に受け止め、運営推進会議の議題に載せるなどして前向きに改善の努力をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回、利用者家族等、地域自治会長、民生委員、包括支援センター担当者などを出席者として欠かさず開催している。その中で事業所の年間行事、地域の行事、事業所の要望など詳細な話し合いを持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1度市の相談員が来所し利用者や職員と交流を図っている。随時電話連絡も取っている。地区社協だよりや中日新聞にも取り上げていただき各機関との連携によりサービスの向上を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便り「泉の家だより」を定期的に発行し、写真を交えてホームの近況報告がなされている。また利用者個々の健康状態などをコメント欄でその方の家族等に伝えるなど、細やかな配慮がみられた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を始め茶話会などを開催し、家族の意見要望を聞く努力をしている。要望等はその後職員の間で話し合いがされ、運営に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や異動はあまり無い。やむ終えない場合は法人本部に要望し職員の補充を速やかにし利用者のストレスとならない様に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内部の研修は、職員が問題提起したことを主な議題とし、月1回程度行っている。また法人全体での研修を含め、年2、3回研修に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は地域同業者と交流する機会を望んでいるが、その機会やネットワーク作りがあまりされていない。	○	法人内の他施設との交流や地域の同種施設の職員同士の交流が密なものとなれば、職員の向上意欲は益々盛んなものになるであろう。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学時に細やかに声かけを行い、安心してもらえるように努力している。利用者が入所後ゆったり馴染んでいた様、利用者の生活歴や既往症等を職員で共有し対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は人生の先輩である利用者から教えていただいているとの思いで日々を過ごしており、歌や草花の手入れ、折り紙の折り方などを利用者から教えていただいている。また利用者が好きなことをやっている姿は職員の喜びともなっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員と利用者が1対1で散歩に出た機会に希望を聞きだしたり日常の観察から意向を探り出している。貼り絵、縫い物、書道など、利用者がそれぞれ気ままに、好きなことを行っている姿を見ることができた。最も印象に残ったことは、食後利用者の一人が誰に言われるでもなく、廊下の手すりを持ちリハビリに励んでいたことである。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月利用者3名分についてケアのあり方を職員が話し合っている。それを介護計画作成に生かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は利用者の変化が認められなくても3ヶ月に1回見直されている。利用者の変化が認められたときは3ヶ月を待つことなく職員同士が話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への受診支援や外出・外泊支援、家族の宿泊などは利用者家族の要望に応じ柔軟な対応をしている。24時間医療連携により健康管理の面で安心をもたらしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者および家族等が希望納得した、近隣のかかりつけ医の往診がある。近隣の坂の上クリニックは24時間対応している。希望の病院を受診する場合も、必要があれば受診支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の看取りをした経験がある。重度化、終末期のあり方は家族等と話し合っているが、明確に文章化されたものは無い。	○	利用者、家族等や職員が安心して日々穏やかに過ごせるように終末期についての明確な文章化された指針を持つことを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の記録等は外部に漏れないよう職員だけが入ることのできる場所に保管している。利用者を「ちゃん」付けで呼ばない等、利用者に対応しい言葉遣いに配慮しており場合によっては注意して意識づけを図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が思い思いに居間のソファや椅子に腰掛け、貼り絵をしたり他の利用者の肩を揉んだりして、ゆったりと生活している姿が見受けられた。きれいにお化粧をしている利用者も見られた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食を除く日々の食事のほとんどが給食弁当にて提供されており、残念ながら利用者や職員が楽しみながら食事を摂っている風景は見られなかった。	○	カロリー計算や調理の手間などを考慮すると難しい面もあるが、少しずつ施設内での調理を増やし利用者や職員が食事を作ること食べることの楽しみを感じられるようにして頂きたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は月、火、木、土曜日と決められてはいるが、午前中に入浴したい利用者の希望を聞き入れるなど臨機応変に対応している。清拭や足浴にも対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月1回、様々な行事を行っている。正月の瑞穂神社への初詣をはじめとし近所の公園へのピクニックや地域ボランティアによる大正琴演奏会など利用者の笑顔を思い浮かべ、職員が喜びを持って企画している姿は爽やかで頼もしい。カラオケで歌ったり、縫い物の得意な利用者が名札づけを担うなど個々の力が活かせるよう場面作りをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほぼ毎日散歩に出かけている。調査日にも何人かの利用者が徒歩や車椅子などで思い思いに出かけて行ったが、急な雨に慌てて「新幹線で帰ってきた」の言葉は微笑ましかった。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、エレベーターには鍵をかけていない。外部の人の出入りも自由に行われており、調査日にも近隣の将棋ボランティアの方が自由に出入りしていた。無論、利用者に危険のないよう見守りはなされていた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や近隣住民などを交えた総合訓練は年2回行われており、通報から3分で近隣住民が駆けつけるなど素晴らしい成果であった。なおかつ、事業所内の部分訓練を年4回行っている。地域の消防隊がホームとの関わりでAランクに選ばれたことも嬉しいことである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週5日はお弁当を取っているので、摂食量の記録と併せておおよそのカロリーは把握できる。水分摂取に関しては以前行われていたが、水分摂取が習慣化されたので最近行われていない。野菜中心のバランスよい手作りの朝食を含め、糖尿病が回復した事例がある。	○	水分摂取は利用者の健康状態と直接結びつく事柄なので、摂取量の記録を残すことが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁面に、利用者と職員合作の季節ごとの貼り絵などの掲示物が大きく展示されている。居間はオープンキッチンで一般家庭の仕様であった。利用者の知人が届けてくださった編み猫がホーム内のあちこちに座っており、利用者の作った鯉幟や兜も飾られ温かい雰囲気であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には箆笥や椅子などが持ち込まれており、家族の写真や利用者の習字・絵などの作品が飾られたり、鼻唄の歌手のポスターを貼るなどその人らしい部屋作りがされていた。部屋に物を出しておくことを好まない利用者の居室も見られたが敢えて利用者の気持ちを尊重している。		